

K-534

米沢市埋蔵文化財報告書 第38集

一ノ坂

一ノ坂遺跡発掘調査概報 第 3 集

平成 5 年 3 月

1993

米沢市教育委員会

米沢市埋蔵文化財報告書 第38集

一・坂

一の坂遺跡発掘調査概報 第 3 集

平成 5 年 3 月

1993

米沢市教育委員会

序 文

文化庁及び山形県教育庁文化課の指導及び援助を受け、調査を継続しております、一ノ坂遺跡は学術的に価値が高い遺跡であるとの評価を受けております。特に、平成元年度は、国内最大の大型住居跡が確認され、その住居跡からは約138万点に及ぶ遺物が出土しております。今年度は第6次調査の年として、第5次調査に引き続き、集落の分布状況を前提に調査を実施しました。

第6次調査区は第5次調査区の下層面であり、竪穴住居跡が5棟確認され、これらの住居は、連続して構築されていることから仮称「連房竪穴住居跡」と表現しています。平成元年に発見された大型住居跡より前の段階と考えられ、縄文時代の遺跡では初の確認となります。

今回の調査の進行によって、今まで予期していなかった下層面から住居群が確認されたことは、一ノ坂遺跡の性格や集落の成立を知る上で大変重要なものと考えられます。

今後も、本遺跡の全容解明に向け尽力してまいる所存ですので、関係各位の一層のお力添えをお願い申し上げます。

最後になりましたが、本調査にあたり、格別の御指導を賜りました文化庁の川原主任調査官及び県教育文化課、そして多大なるご協力を賜りました地権者の丸山亥吉氏、赤木友之氏、赤木伊勢吉氏、渡部重夫氏に対し、心から御礼を申しあげます。

平成5年3月31日

米沢市教育委員会

教育長 小口豆

例　　言

1. 本報告書は、文化庁の国庫補助を受けて、平成4年度（1992）に実施した一ノ坂遺跡「大型住居跡」周辺の開発予定地域、調査概報第3集である。
2. 発掘調査は、米沢市教育委員会が主体となって、大型住居跡確認に伴う周辺開発予定地域の第6次調査として平成4年10月28日～同年11月20日の期間で実施したものである。
3. 調査体制は下記の通りである。

調査総括 木村琢美（文化課長）

調査担当 手塚 孝（文化課文化財係主任）

調査主任 菊地政信（文化課文化財係主任）

調査副主任 月山隆弘（文化課文化財係主事）

作業員 遠藤忠一、黒田よし子、小浦文吉

佐藤栄吉、沢根英夫、羽賀二雄

事務局 我妻淳一（文化課長補佐）

小林伸一（文化課文化財係長）

平間洋子（文化課文化財主査）

調査指導 文化庁、山形県教育庁文化課

調査協力 丸山亥吉、赤木伊勢吉、赤木友之、渡部重夫、堤 育（敬称略）

4. 採図の縮尺は各図面にスケールで示した。

5. 本書の作成は菊地政信が担当した。月山隆弘が補佐し、全体的に手塚 孝が総括した。責任校正は小林伸一がその責務にあたった。

6. 石器実測図、土器拓影図の各遺物についてある番号は、写真図版と同一番号を使用している。石器の出土地点は採図に示した。「F」は覆土を表す。

本文目次

(表紙題字は米沢市教育委員会教育長小口 亘による)

序文
例言
目次

1 遺跡の位置と調査に至る経過	1
2 調査の経過	1
3 検出遺構	3
住居跡	3
土壤	3
4 検出遺物	5
石器	5
土器	5
5 まとめ、参考文献	17

挿図目次

第1図 一ノ坂遺跡位置図	2
第2図 一ノ坂遺跡グリット配図	4
第3図 一ノ坂遺跡第6次調査HY平面図	6
第4図 一ノ坂遺跡第6次調査遺構全体図	7
第5図 一ノ坂遺跡第6次調査出土石器実測図(1)	8
第6図 一ノ坂遺跡第6次調査出土石器実測図(2)	9
第7図 一ノ坂遺跡第6次調査出土石器実測図(3)	10
第8図 一ノ坂遺跡第6次調査出土石器実測図(4)	11
第9図 一ノ坂遺跡第6次調査出土石器実測図(5)	12
第10図 一ノ坂遺跡第6次調査HY14出土土器拓影図(1)	13
第11図 一ノ坂遺跡第6次調査HY15出土土器拓影図(2)	14
第12図 一ノ坂遺跡第6次調査HY15・17・包含層出土土器拓影図(3)	15
第13図 一ノ坂遺跡遺構全体概要図	16

図 版 目 次

- 卷頭図版 第6次調査区全景 HY14完掘状況
- 第一図版 一ノ坂遺跡第6次調査の発掘（調査区遠景、第6次調査区全景）(1)
- 第二図版 一ノ坂遺跡第6次調査の発掘（調査風景、サクランボの木移植風景）(2)
- 第三図版 一ノ坂遺跡第6次調査の発掘（HY18.16のプラン確認状況）(3)
- 第四図版 一ノ坂遺跡第6次調査の発掘
(HY15.14.17のプラン確認状況、HY14完掘状況) (4)
- 第五図版 一ノ坂遺跡第6次調査の発掘（HY14完掘状況、HY14遺物出土状況）(5)
- 第六図版 一ノ坂遺跡第6次調査出土の土器（HY14出土土器）(1)
- 第七図版 一ノ坂遺跡第6次調査出土の土器（HY15出土土器）(2)
- 第八図版 一ノ坂遺跡第6次調査出土の土器（HY17出土土器、石器、礫器）(3)
- 第九図版 一ノ坂遺跡第6次調査出土の土器（包含層出土土器）(4)
- 第十図版 一ノ坂遺跡第6次調査出土の石器(1)
- 第十一図版 一ノ坂遺跡第6次調査出土の石器(2)
- 第十二図版 一ノ坂遺跡第6次調査出土の石器(3)
- 第十三図版 一ノ坂遺跡第6次調査出土の石器(4)
- 第十四図版 一ノ坂遺跡第6次調査出土の礫器(1)

本文目次

(表紙題字は米沢市教育委員会教育長小口 亘による)

序文

例言

目次

1 遺跡の位置と調査に至る経過	1
2 調査の経過	1
3 検出遺構	3
住居跡	3
土壌	3
4 検出遺物	5
石器	5
土器	5
5 まとめ、参考文献	17

挿図目次

第1図 一ノ坂遺跡位置図	2
第2図 一ノ坂遺跡グリット配図	4
第3図 一ノ坂遺跡第6次調査HY平面図	6
第4図 一ノ坂遺跡第6次調査遺構全体図	7
第5図 一ノ坂遺跡第6次調査出土石器実測図(1)	8
第6図 一ノ坂遺跡第6次調査出土石器実測図(2)	9
第7図 一ノ坂遺跡第6次調査出土石器実測図(3)	10
第8図 一ノ坂遺跡第6次調査出土石器実測図(4)	11
第9図 一ノ坂遺跡第6次調査出土石器実測図(5)	12
第10図 一ノ坂遺跡第6次調査HY14出土土器拓影図(1)	13
第11図 一ノ坂遺跡第6次調査HY15出土土器拓影図(2)	14
第12図 一ノ坂遺跡第6次調査HY15・17・包含層出土土器拓影図(3)	15
第13図 一ノ坂遺跡遺構全体概要図	16



▲ HY15プラン確認状況（北から望む）



▲ HY14完掘状況（北から望む）

1. 遺跡の位置と調査に至る経過

本遺跡は、米沢市街地西方約2kmに位置し、矢来一丁目に所在する。遺跡周辺の地形は、笹野山丘陵の西端となる羽山山麓から東に張り出した緩やかな舌状微高地を呈す。（第1図参照）

遺跡範囲は、東西220m、南北310mと推測され、現況は宅地、畑地、果樹園等に利用されている。本遺跡周辺には、生蓮寺、地蔵園、館山、宮ノ前、縁返館遺跡等の縄文前期、中期を主体とした40数箇所の遺跡が確認、登録されており、縄文前期初頭を中心に、一部、縄文中期中葉、同後期初頭と中世の遺跡が認められている。

平成元年度に本遺跡範囲内での宅地造成計画に伴い、本市教育委員会が発掘調査を実施した結果、国内最長の大型堅穴住居跡（43.5m）と130万点にも及ぶ多量の石器類が検出された。

これらをふまえ、文化庁ならびに県教育庁文化課の指導のもと、故山田誠次郎、赤木伊勢吉両氏の御厚意により、大型住居跡遺構を保存している。また、本市教員委員会では当遺跡の重要性を鑑み、平成元年度（1989）に1・2次調査、翌2年度には国、県の補助を得ながら3・4次調査、さらに3年度には5次調査を実施しており、今回の調査が6次調査にあたる。

2. 調査の経過

今年度の調査区には、I次調査区（大型住居跡）の南東地域であり、河岸段丘の直下に位置している。平成2年度に実施した4次調査と北西方向が一部重複し、さらに平成3年度調査の5次調査区とも重複する。（第2図参照） 調査面積はトレンチ調査箇所も含め、約262m²であった。

調査開始にあたり、発掘作業や記録作業等を計画的進めため、調査区全体に2m×2mを1単位として、グリッドを設定した。このグリッド設定は、遺跡全体を把握するため、1次から5次調査時のグリッド設定と整合する方法をとった。次いで、遺構確認面まで手掘で表土剥離を行った。今回の調査区の遺構確認面は、平成2年度及び平成3年度の遺構検出面の下層に存在し、表土から約1m～1.5mの深掘となった。

面整理後、遺構確認を行った結果、住居跡5棟を確認した。南側のBトレンチからは、縄文前期初頭の土器片より、縄文中期の土器片がより多く確認された。この調査区は地山がシルト質であり、トレンチ南方には縄文中期に位置する遺構の存在が推測される。トレンチ西部にはHY18の存在が明らかになる。第4図で示すように、HY18とHY16の間には2棟から3棟存在するものと考えたい。これらの住居跡群の中でHY14を、床面まで掘り下げた。11月14日から掘り下げを開始し、11月17日で完了した。遺物は大型住居跡と比較すると少ないが、一般的には普通の出土量であった。11月13日に文化庁の河原主任調査官が来遺し、今回の住居跡群を仮称「連房型住居跡」と呼んではどうかと、提案された。来年度も継続して調査を実施することにし、11月20日に埋め戻した。11月21日に発掘用具を撤収し、6次調査を終了する。



第1図 一ノ坂通路位置図

3. 検出遺構

今回の6次調査で検出した遺構は、堅穴住居跡HY14～HY18の5棟とDY5の土壙1基であった。第4図で示すように、堅穴住居跡は段丘直下の調査区全域にわたって認められ、このうちHY14を完掘した。他の住居跡はプラン確認にとどめる。

これらの堅穴住居跡群は、第13図でもわかるように、5次調査区の下層面からの検出で、地山を掘込んで構築している。平面形状は、長方形状を呈するのが基本であるが、完掘したHY14は隅丸方形プランを示していた。これらの遺構群について、下記に述べる。

- 住居跡 (HY14、15、16、17、18)

HY14〔第3、13図〕

HY17とHY15の間にあり、東西方向に主軸長を有し、長径4.6m、短径3.4mを測る。柱穴は、P1～P13の13本が確認された。柱の間隔は80～100cmで、深さは20～60cmと深い。柱の太さは20cmと一定している。

壁は内側に入り込んだフ拉斯コ状をなし、北壁のみが直角に立ち上がる。覆土は人工堆積状況を呈し、砂利、礫を多量に含んでいる。

床面は平坦で、西から東に僅かに傾斜しており、中央部に炉跡が認められる。炉跡は浅いボル状を呈し、焼土が認められた。

遺物は石匙3点、第5図16、17、第8図15、尖頭器第5図3、石錐第6図12、13、14の3点等がある。詳細については挿図に記してあるので参考願いたい。他に剥片187点、土器片78点、クルミの炭化物少量が出土している。剥片はチップが3分の1を占める。第3図の平面図で示すように、中央部にセクションベルトを残しており、一括土器AZ10がセクションベルトに中にも認められた。復元可能な土器はAZ10の1点だけであった。

HY15〔第4図〕

HY14の北に位置し、今回検出した住居跡の中では、最も大型の住居跡である。長軸は11mを割り、短軸4mを有す。覆土に多量の礫、砂利を含む。4次調査の土壙が一部、重複する。

HY16〔第4図〕

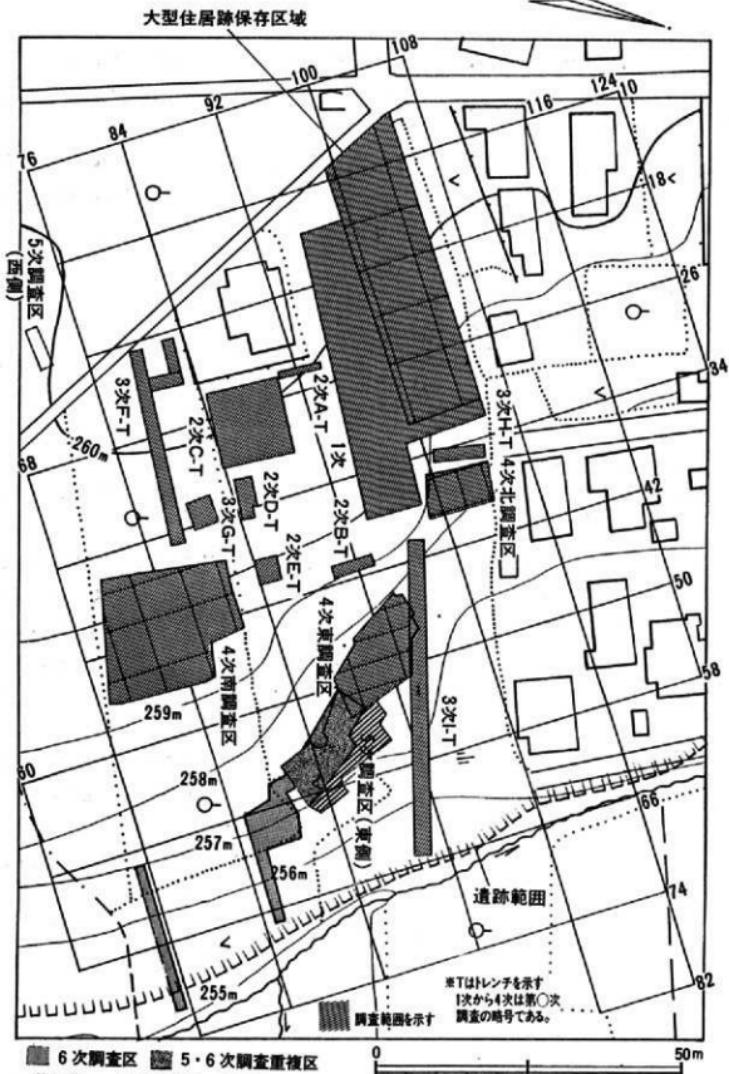
南側の調査区からの検出で、長さは不明であるが、HY15と同様な長方形プランを呈するものと想定している。住居跡の幅は3.3mを測る。覆土に少量の礫、砂利を含む。

HY14の南に位置し、長軸8.6m、幅4mを測る。Aトレンチにより、プランを確認した。

HY18〔第4図〕

Bトレンチの西側から検出されたもので、南コーナ部が確認された。

- 土壙はHY14の西側、壁直上に位置し、今回はプラン確認だけにとどめた。



第2図 一ノ坂遺跡グリッド配図

4. 検出遺物

6次調査区から出土した遺物は、総数585点であった。これらの遺物は大別すると、石器・土器・礫器・陶磁器に分けられる。以下に細別して述べたい。

○ 石器〔第5図～第9図、第十図版～第十三図版〕

完成石器39点、剥片309点である。剥片はフレーク、チップに分けられ、後者が約3分の2を占める。同一母岩より、剥離された剥片も認められた。実測図を作成した石器を形態別に分類して説明を加えたい。

石錐〔第6図12、13、14〕

HY14の覆土から3点出土している。12、13は素材となる縦形の剥片に簡単な調整を加えただけの石錐である。14は棒状に両面調整により、整形されている。いずれも使用痕は観察されなかつた。

石匙〔第5図、16、17、第8図15〕

16はプラン確認面、15、17はHY14の覆土から出土している。明瞭なつまみ部を有するものは3点であるが、欠損品として、第5図の2、第8図の31がある。縁辺の観察から、製作途上で失敗した石匙と言えよう。第6図32でも同様である。

第8図18や第6図19、20は石匙の製作断念石器と呼びたい。

尖頭状石器〔第5図1、3、第7図2、4〕

これらの石器は、当市において一ノ坂遺跡にだけ認められる石器群である。第5図1、2は比較的完成された形態である。第7図2、4は製作途上の断念石器と考えたい。

打製石斧〔第9図9〕

刃部再生によって、使用された痕跡を呈す石器であり、使用不可能になって廃棄された打製石斧である。一次剥離を有す稜線に柄着装による痕跡が観察される。第9図10は打製石斧の製作失敗品であろう。

削器〔第8図37〕

片面調整であり、使用痕が認められる。両面に加熱によるハジケ面を有す。第9図8は削器類の製作途上石器と考えたい。

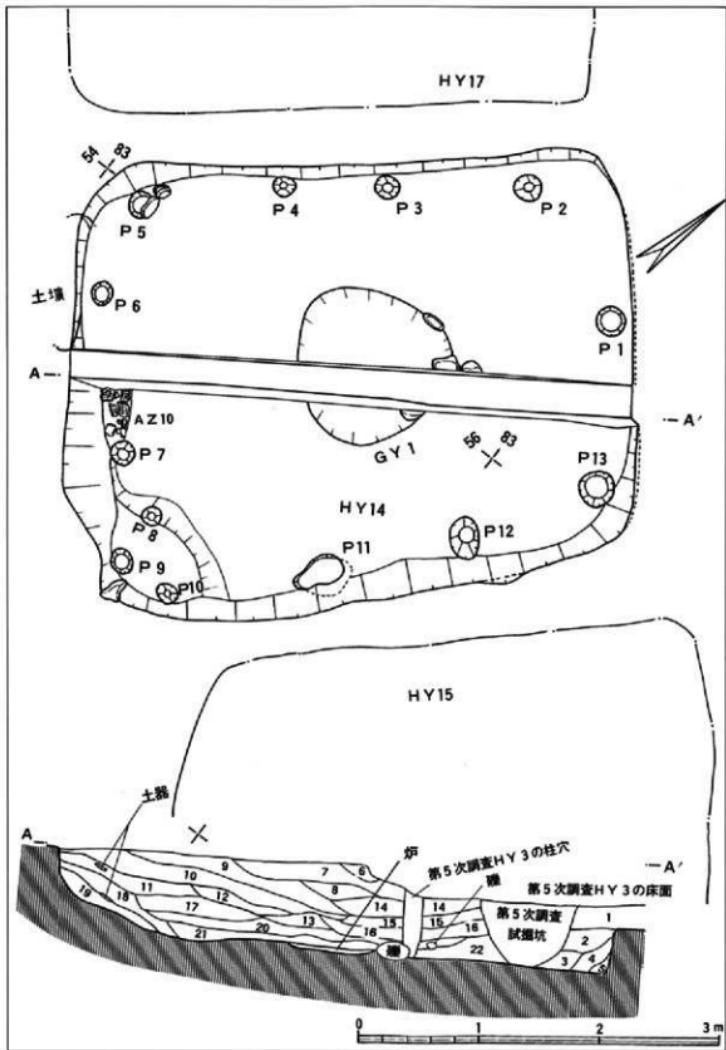
小形の尖頭状石器〔第8図5、6〕

両面調整によって、整形される石器群である。2点とも製作途上の断念石器であろう。

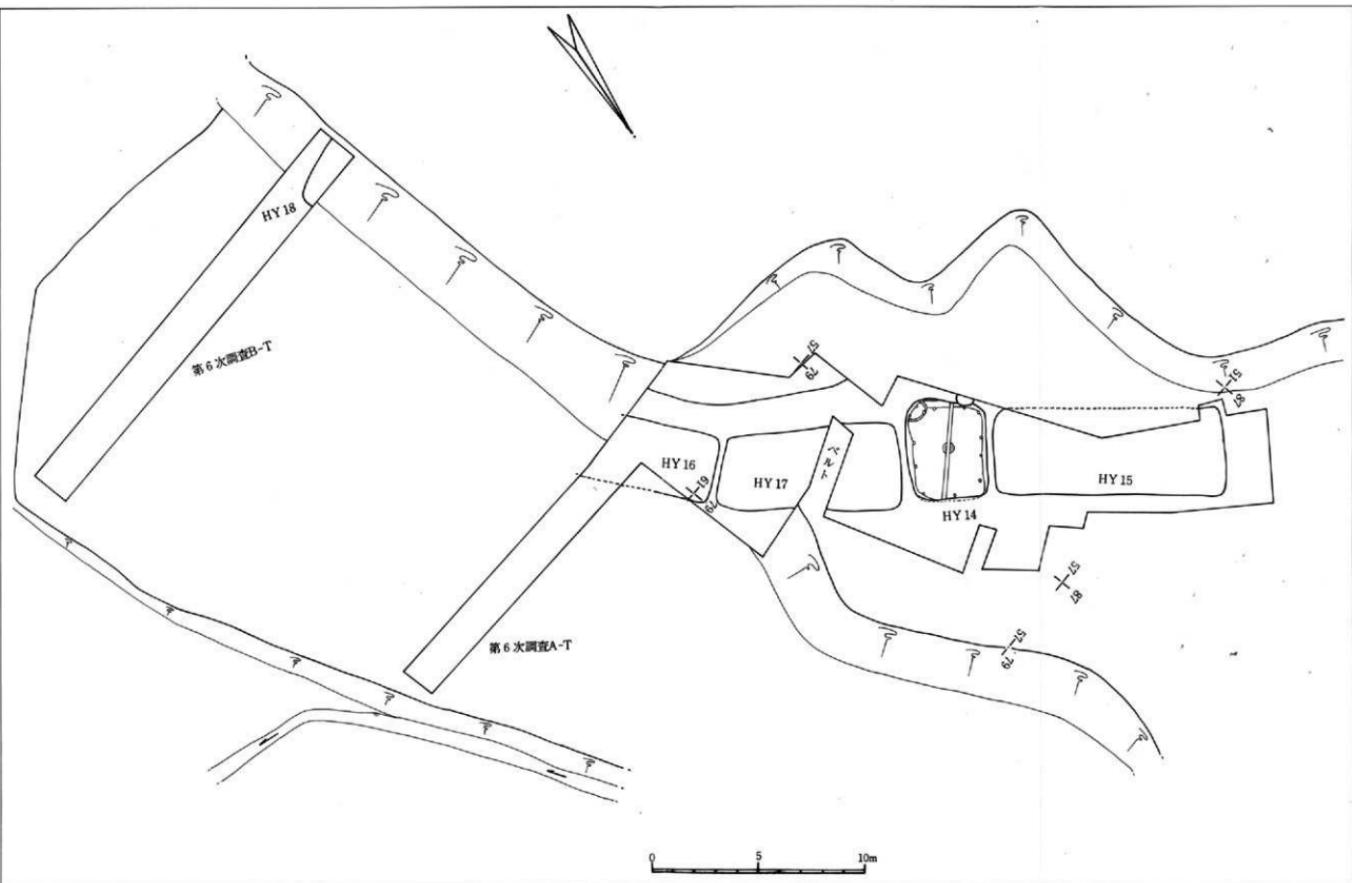
礫器〔第十四図版〕

○ 土器〔第10図～第12図、第六図版～九図版〕

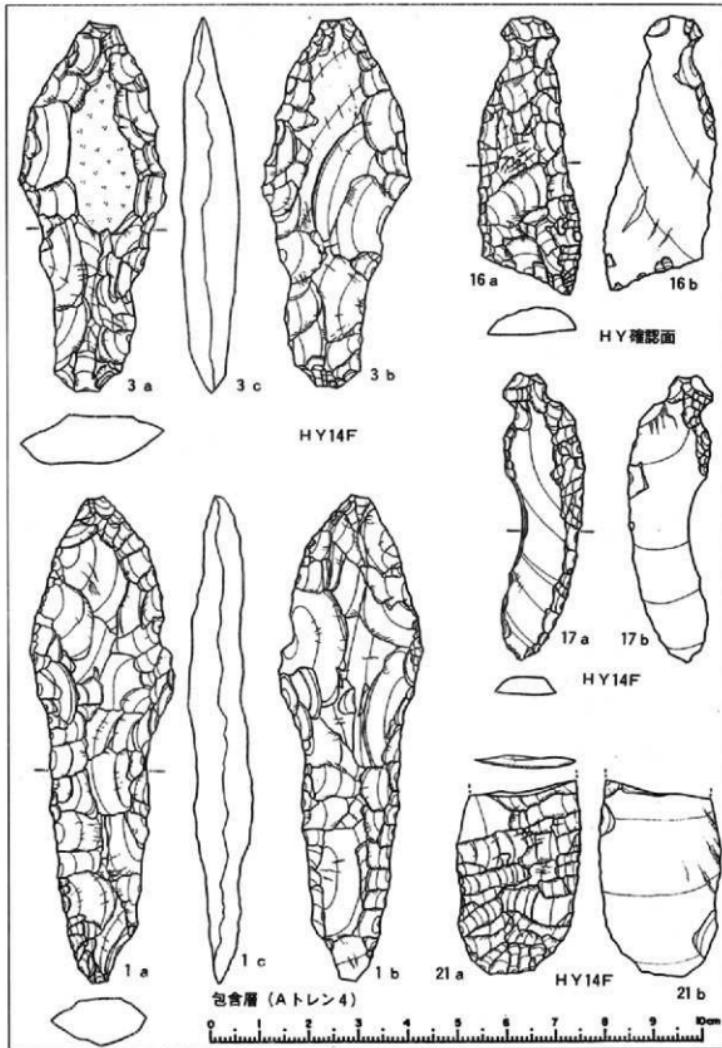
HY14を中心に276点出土している。小破片が大半を占め、ループ文等が主体で他に縄文原体を利用した文様があり、平成3年度の5次調査出土の土器群と同一である。



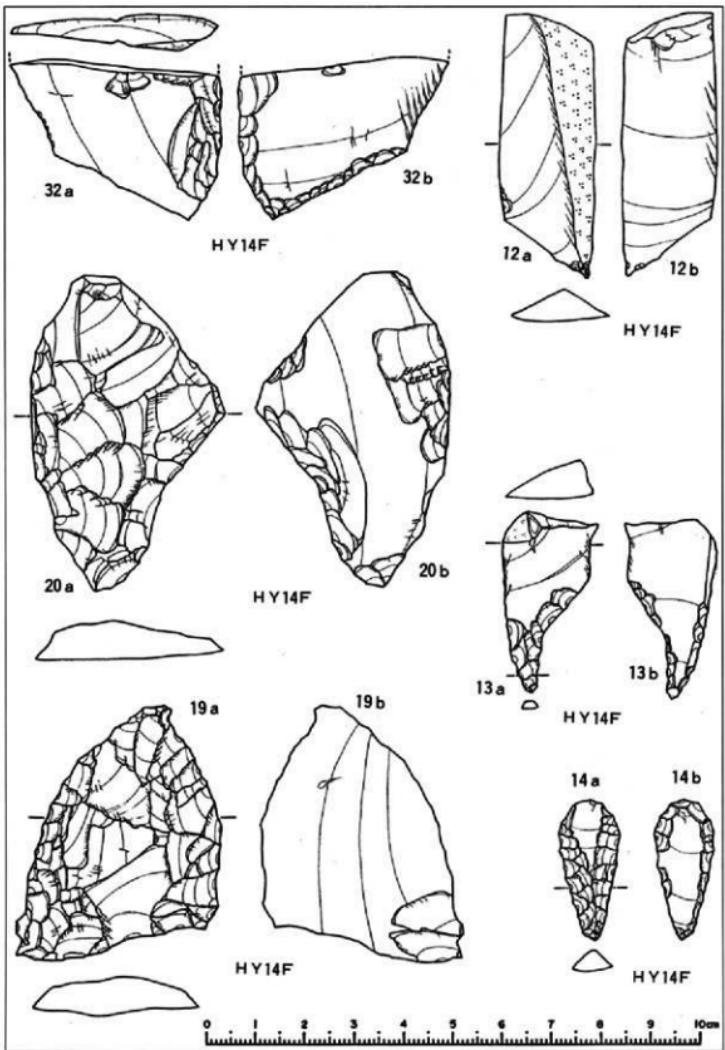
第3図 一ノ板遺跡第6次調査HY14平面図



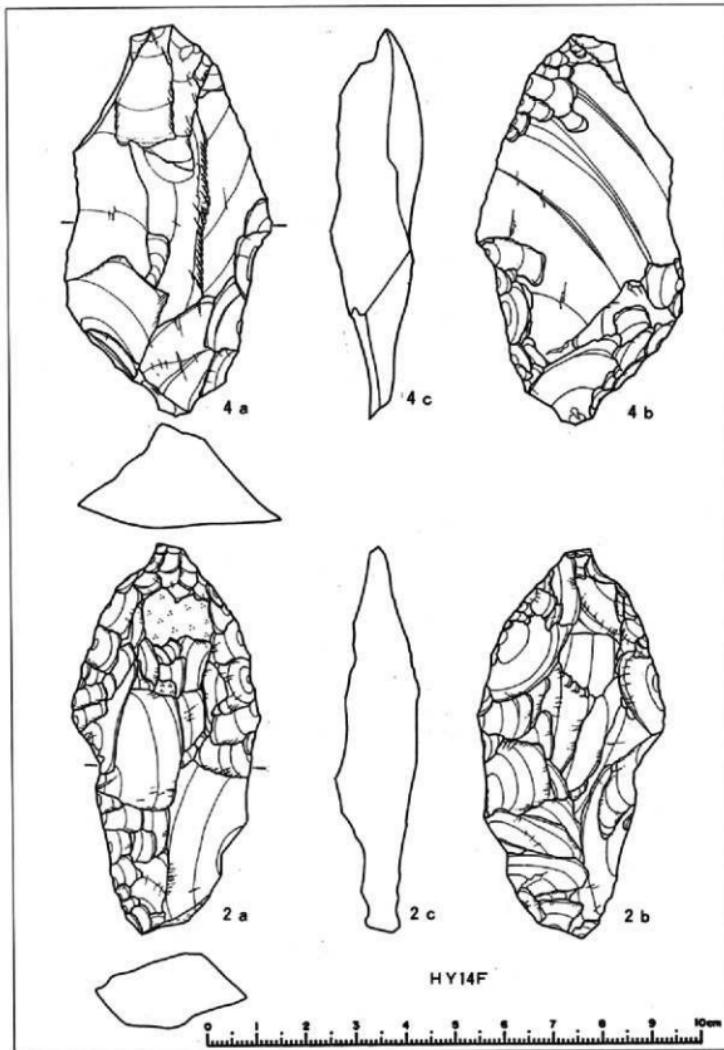
第4図 一ノ坂遺跡第6次調査遺構全体図



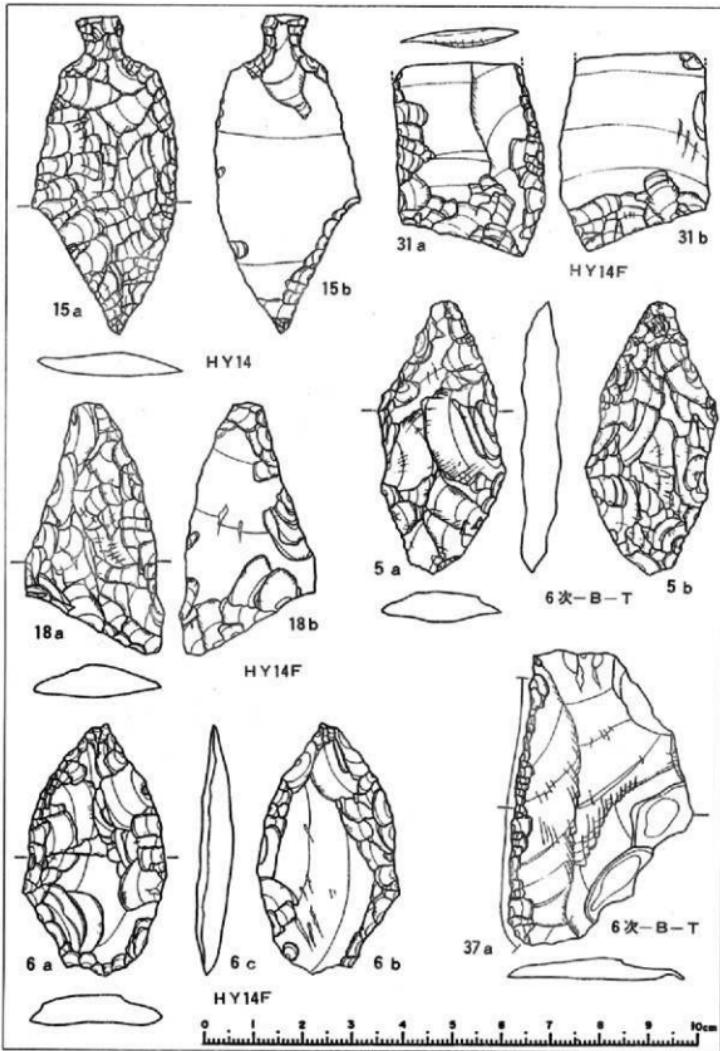
第5図 一ノ坂遺跡第6次調査出土石器実測図(1)



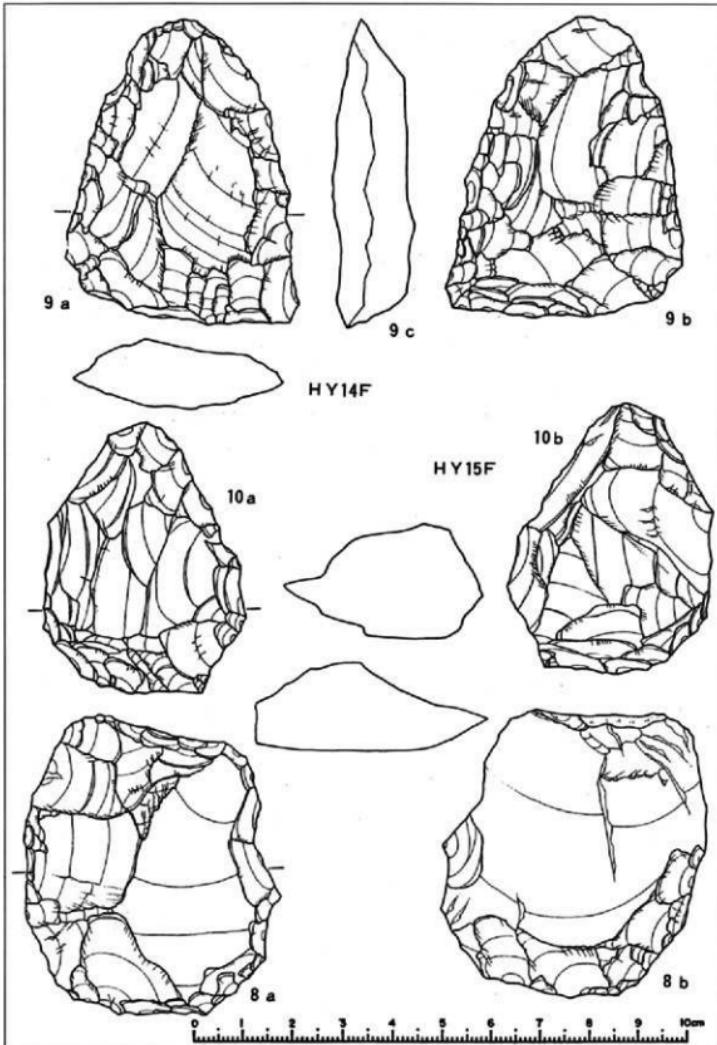
第6図 一ノ坂遺跡第6次調査出土石器実測図(2)



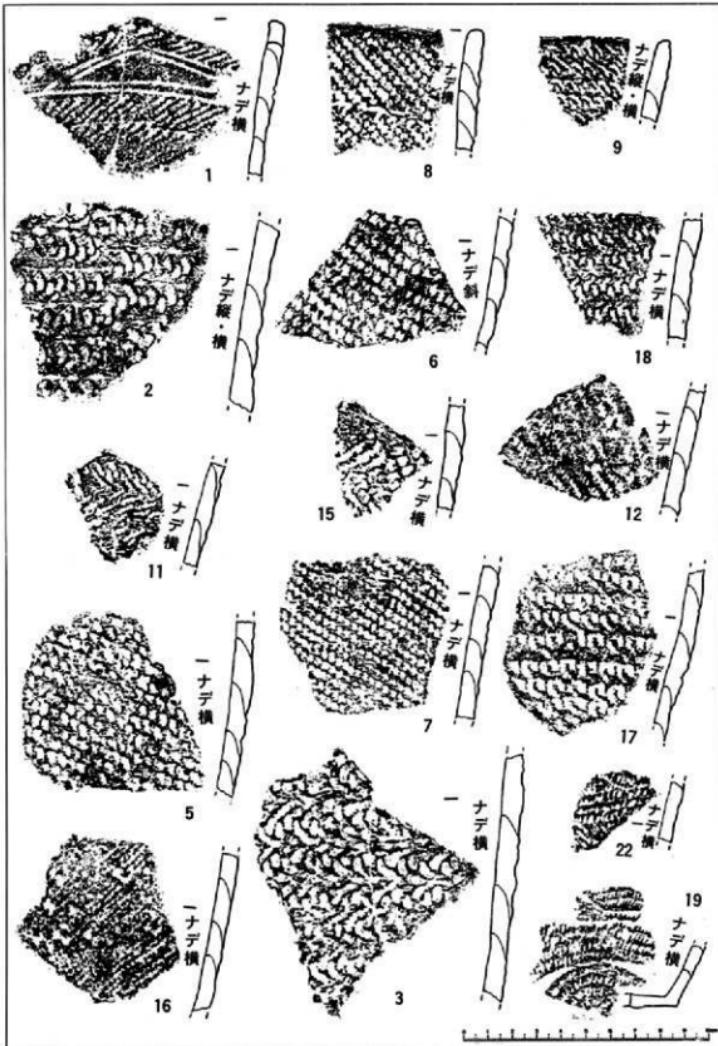
第7図 一ノ坂遺跡第6次調査出土石器実測図(3)



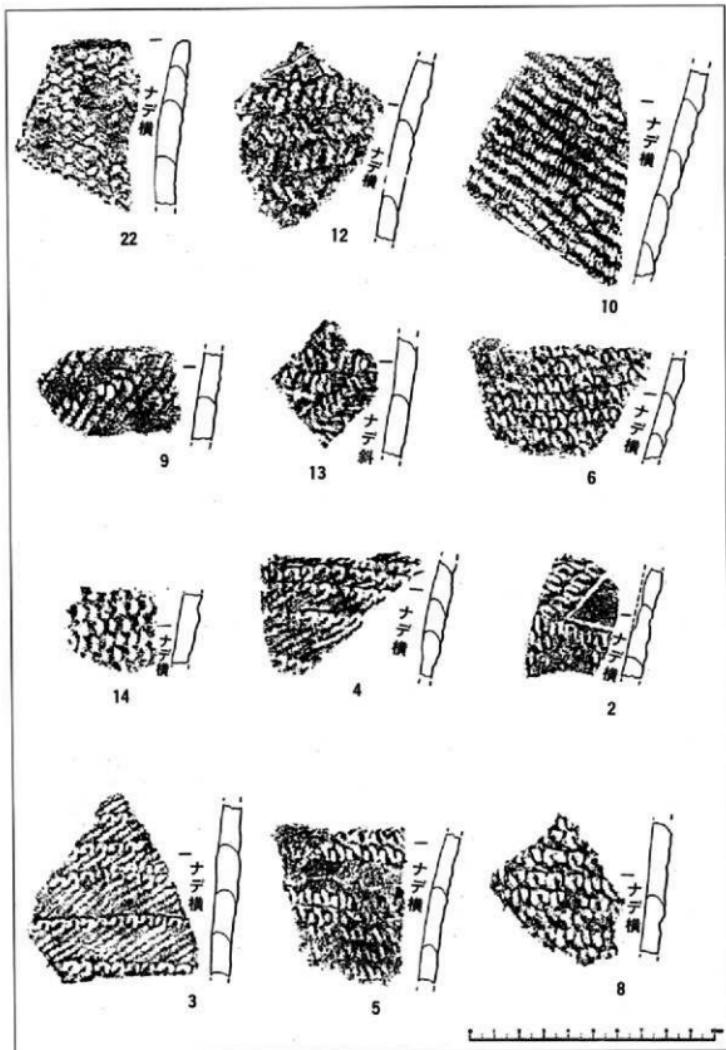
第8図 一ノ坂遺跡第6次調査出土石器実測図(4)



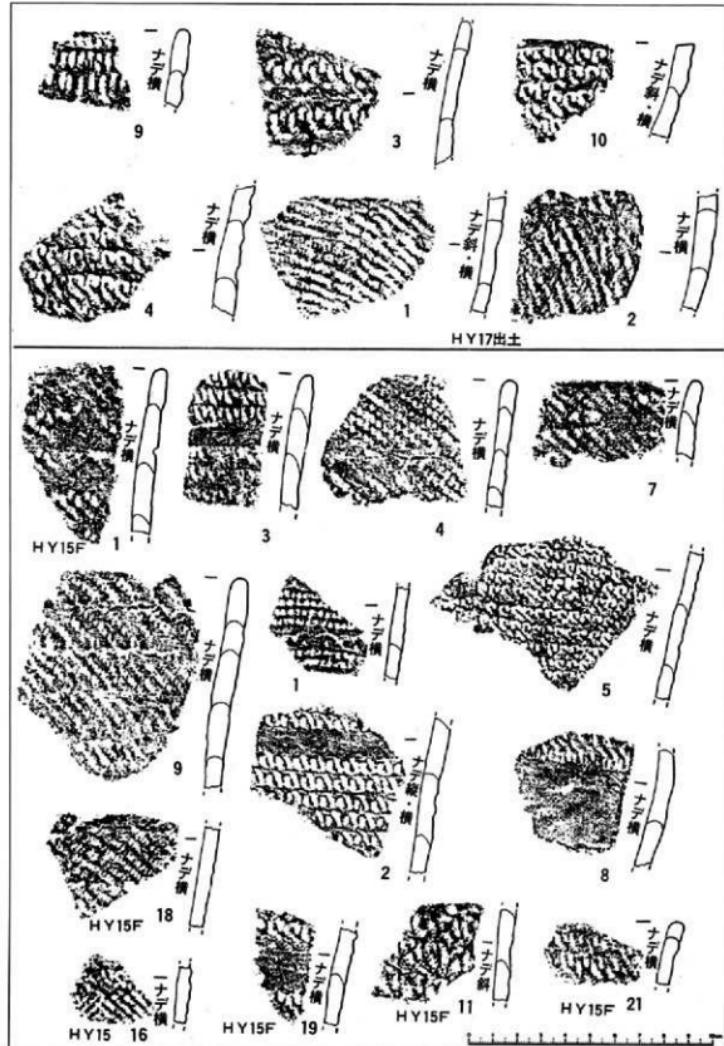
第9図 一ノ坂遺跡第6次調査出土石器実測図(5)



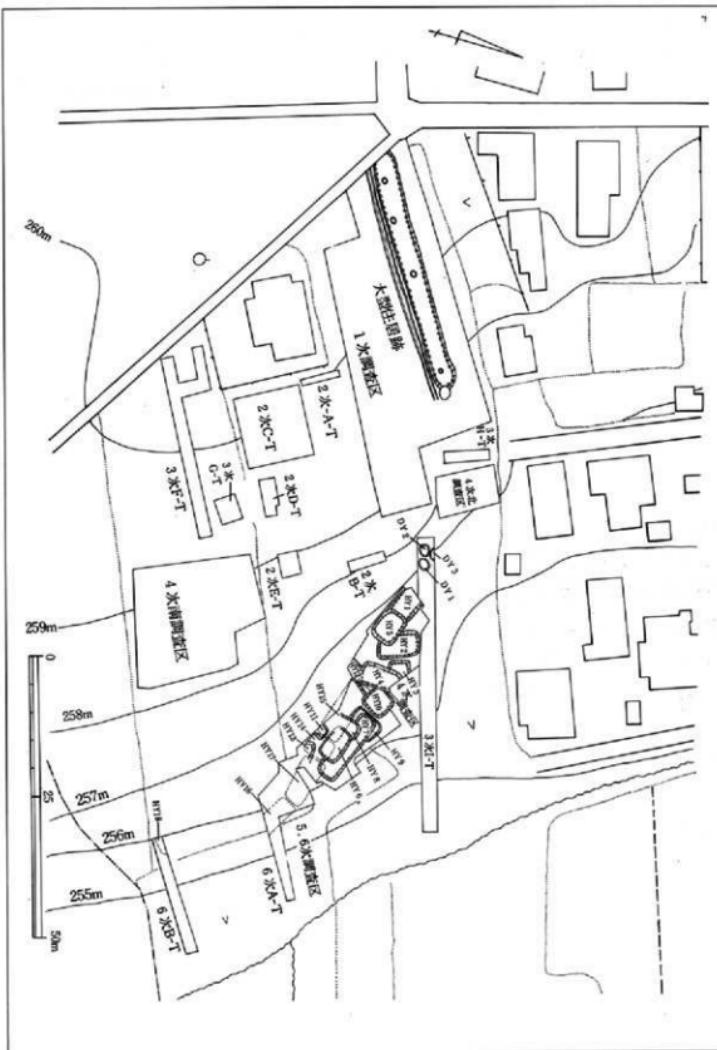
第10図 一ノ坂遺跡第6次調査HY14出土土器拓影図(1)



第11図 一ノ坂遺跡第6次調査H Y15出土土器拓影図(2)



第12図 一ノ坂遺跡第6次調査 HY15.17 包含層出土 土器拓影図 包含層出土 3.4.7.9.1.5.2.8.



第13図 一ノ坂遺跡遺構全体概要図

5.まとめ

今回の第6次調査で検出した遺構は、これまでの第3～5次調査で、確認されている堅穴住居跡の下層から検出したもので、住居跡の覆土の状況から、機能を失った直後に埋め戻され、客土を加えて整地し、第3～5次調査で検出した住居跡群を構築したものと考えられる。

住居跡は河岸段丘の直下に連続し、約30～40cmの空間を挟み、極端に隣接するように構築しているのが特徴である。今回の調査では、BトレンチのHY18を含め5棟が確認されているが、未調査の部分も含めて推定すれば、約50mの7～8棟の堅穴住居跡群で構成するものと考えられる。

この堅穴住居跡群は異常に隣接しているものの、切り合い関係が認められないことや、遺構確認面での観察から、同時期で機能した住居跡群と判断される。掘り下げたHY14の状況をみた場合、住居跡の壁が深く、柱穴も從来の堅穴住居跡と比較しても大きいことから、個々の住居跡が連続するものではなく、単一の大型住居の変形と推測される。

この種の堅穴住居は、これまでの縄文前期初頭から検出した例はなく、極めて特異な住居跡と言える。単一の大型住居跡であるにもかかわらず、個々の住居跡として、独立していることは全体の住居跡の中での機能分担を意味するものと考えられ、平成元年に検出した石器工房的な存在と推測される。従って、今回の連続する堅穴住居跡を仮称すれば「連房型堅穴住居跡」と表現するのが適切と言える。

検出された遺物、特に土器群の分析結果から、そのループ文等からみて、第1次調査の大型住居跡や第3～5次調査で確認された土器群とは、ほとんど時期差がないことから、当「連房型住居跡」が何らかの理由（湿気、排水）で廃棄され、埋め戻して、北西に位置する高台に平成元年に発見した、大型堅穴住居跡を移転構築したものと想定される。その「連房型堅穴住居跡」を埋め戻した後に一般住居跡群を構築したと解釈したい。

その点の吟味は、来年度の調査で解明してゆきたいと考えているが、縄文前期初頭の時代における仮称「連房型堅穴住居跡」の存在は、全国的に見ても類例は今のところなく、縄文時代の堅穴住居跡の研究、ことに大型住居跡の性格や成立、発展を知る上でも極めて重要な資料となる。

最後に、今回の調査において、多大なご協力を賜りました地権者の丸山亥吉氏、渡部重夫氏はじめ関係各位に対し、心から御礼申し上げます。

参考文献

- 1990年 遺跡詳細分布調査報告書 米沢市埋蔵文化財報告書第27集、18頁～25頁
- 1991年 一ノ坂遺跡発掘調査概報 第1集 米沢市埋蔵文化財報告書第30集
- 1992年 一ノ坂遺跡発掘調査概報 第2集 米沢市埋蔵文化財報告書第35集

写 真 図 版



▲ 調査区遠景（東南から望む）



▲ 第6次調査区全景（南方から望む）



▲調査風景（南方から望む）



▲サクランボの木移植風景（東方から望む）



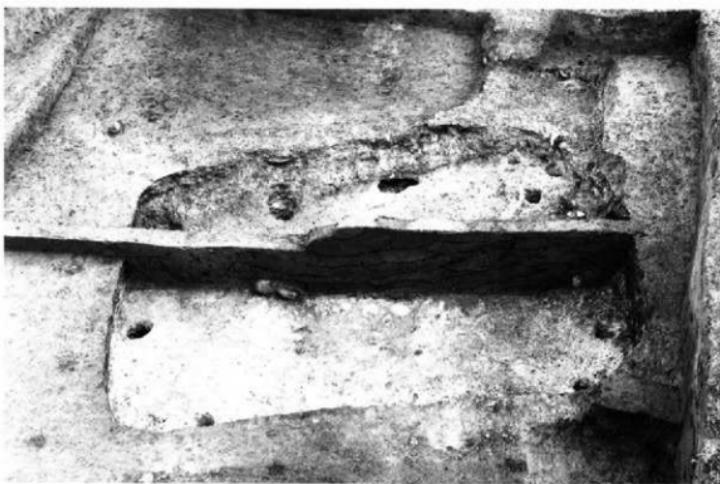
▲ H Y18のプラン確認状況（東方から望む）



▲ H Y16のプラン確認状況（西方から望む）



▲ 手前より、HY15、14、17プラン確認状況（北方から望む）



▲ HY14完掘状況（北方から望む）

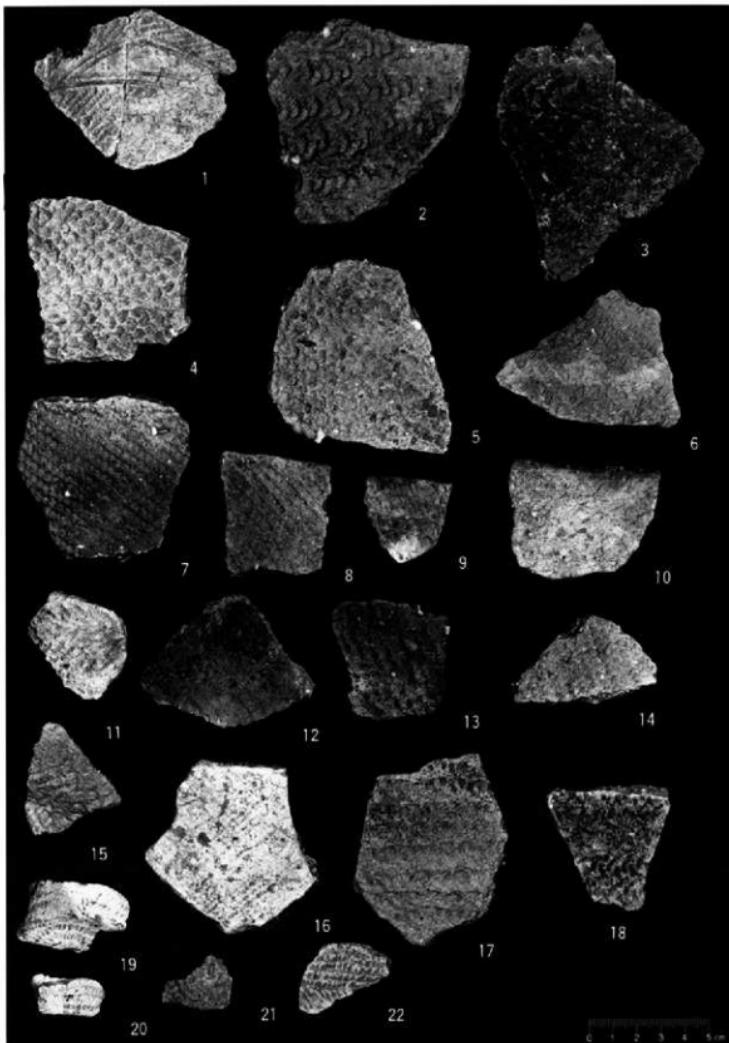


▲ H Y14完掘状況（南方から望む）

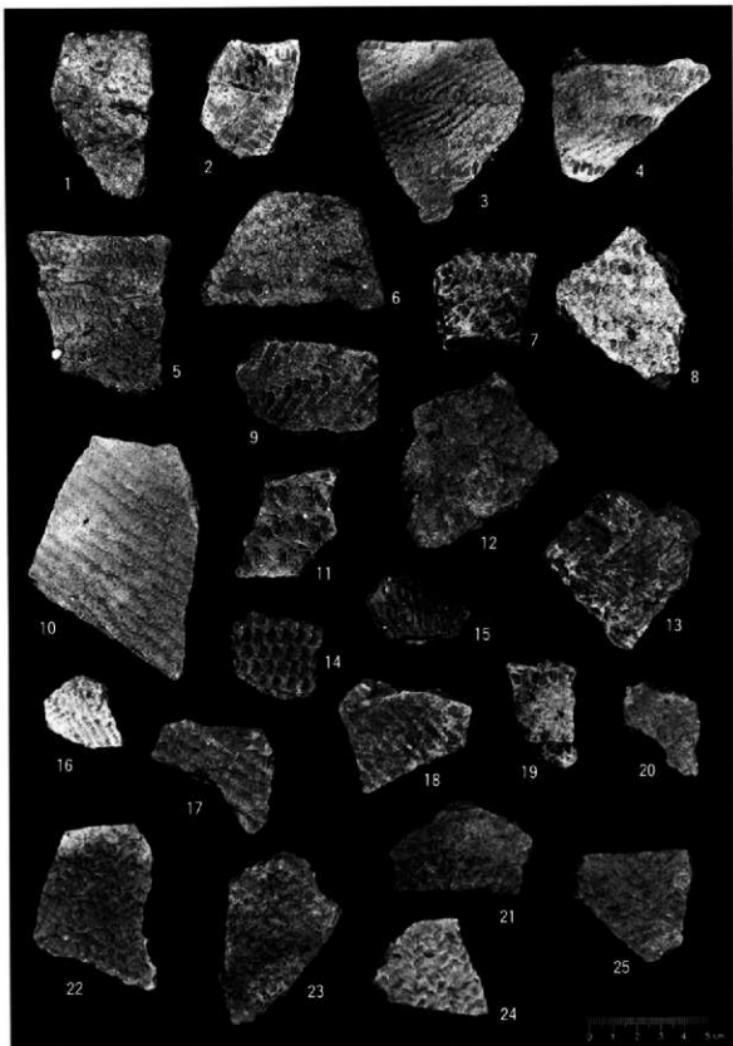


▲ H Y14遺物出土状況（上部写真の左側遺物拡大、東方から望む）

第六回版
一ノ坂遺跡第六次調査出土の土器(1)

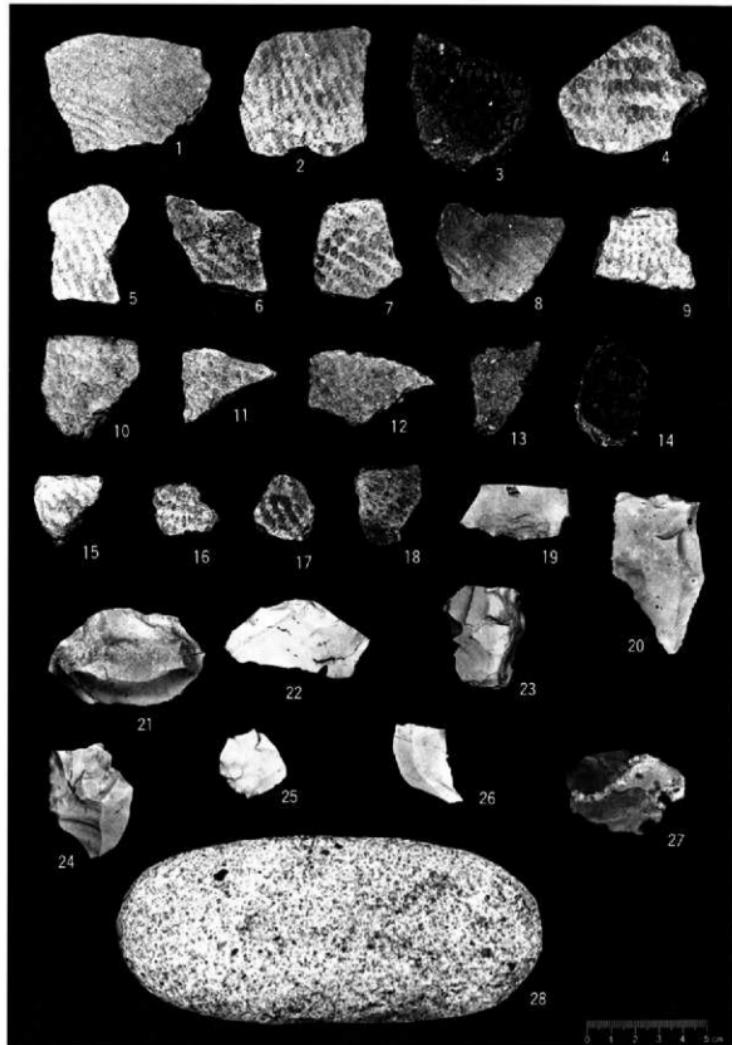


HY14出土の土器

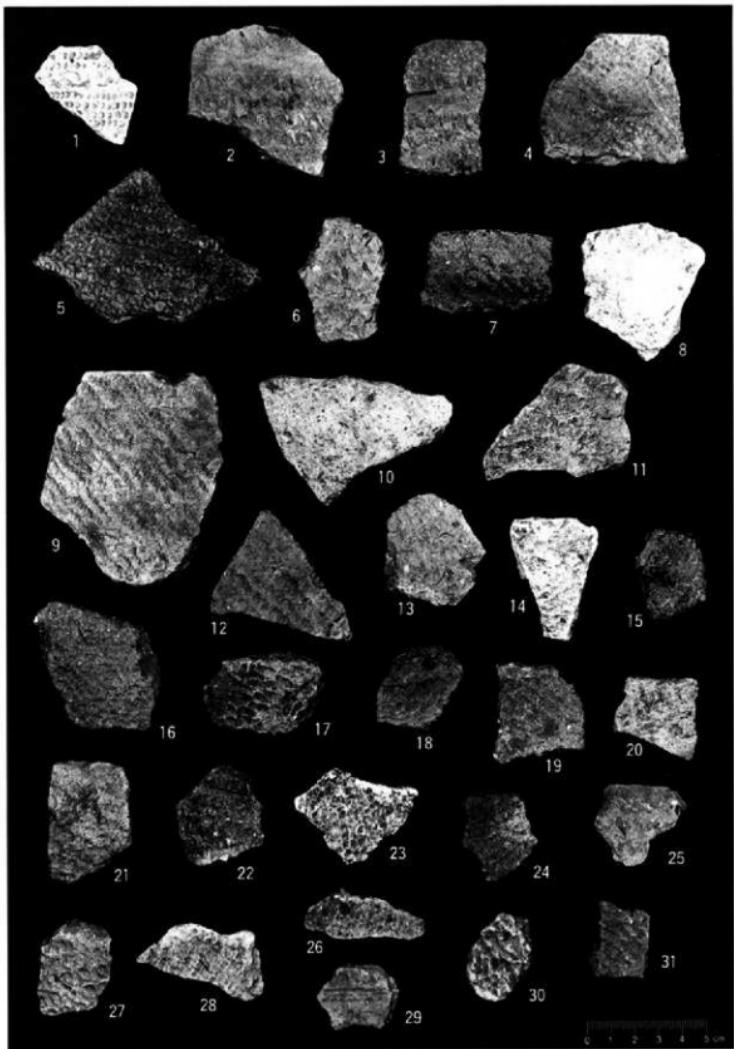


HY15の出土の土器

第八図版
一ノ坂通路第六次調査出土の土器(3)

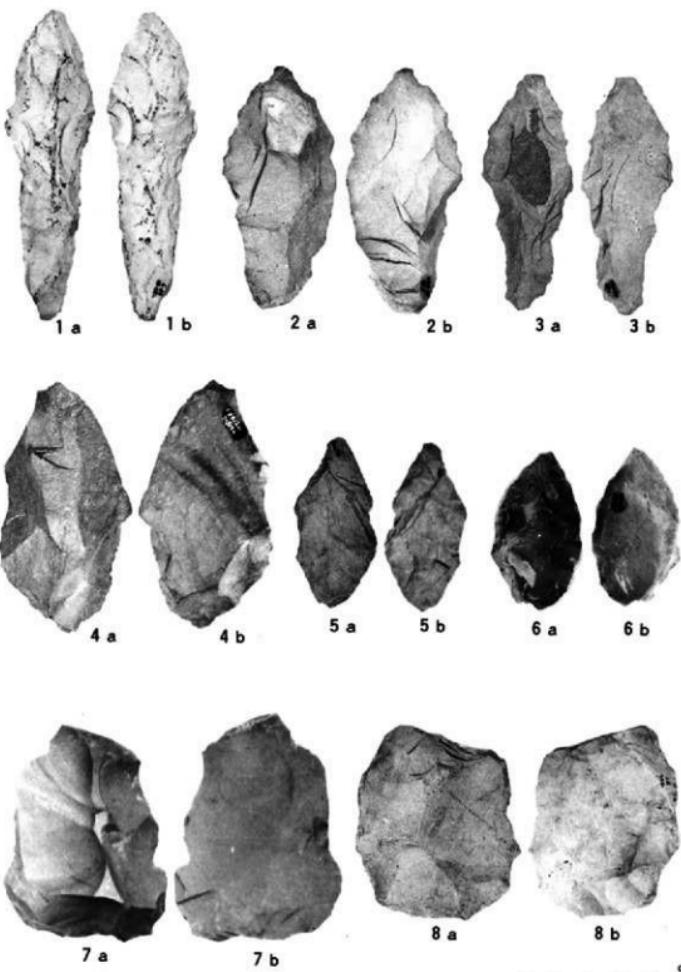


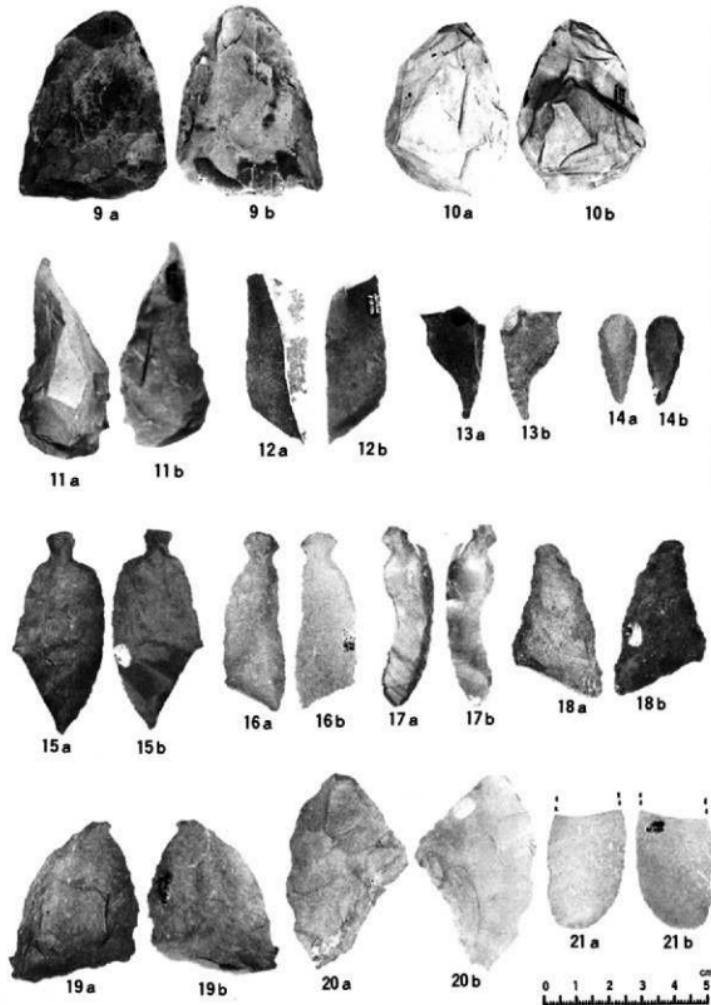
H.Y.17出土の土器、石器、凹石



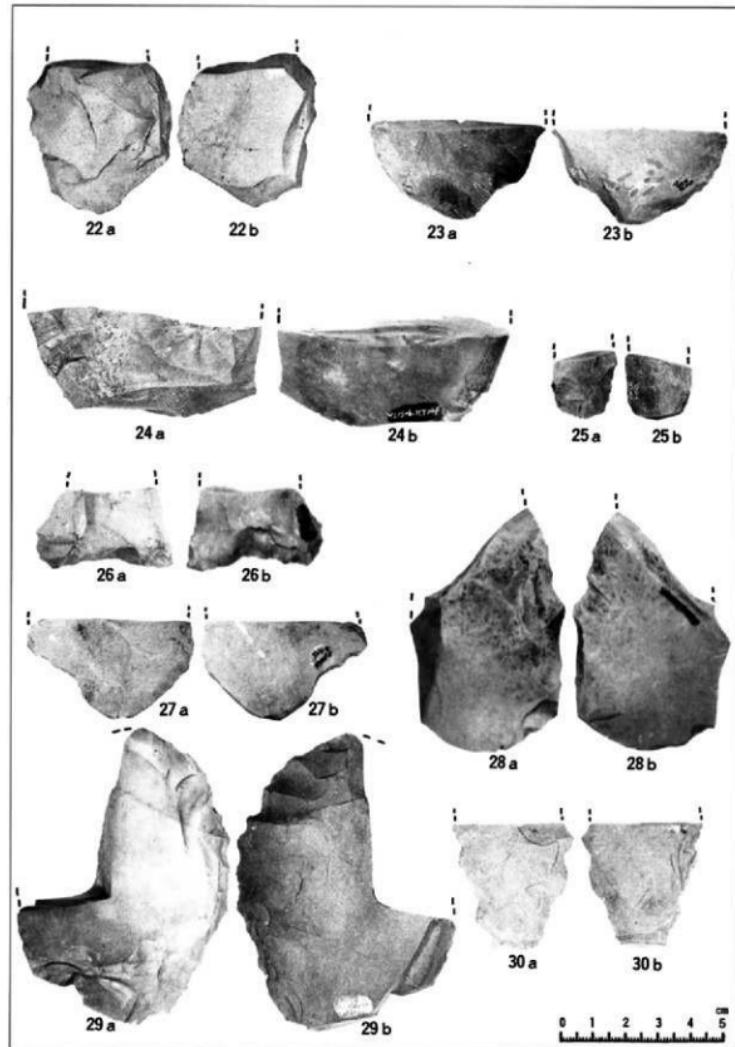
包含層出土の土器

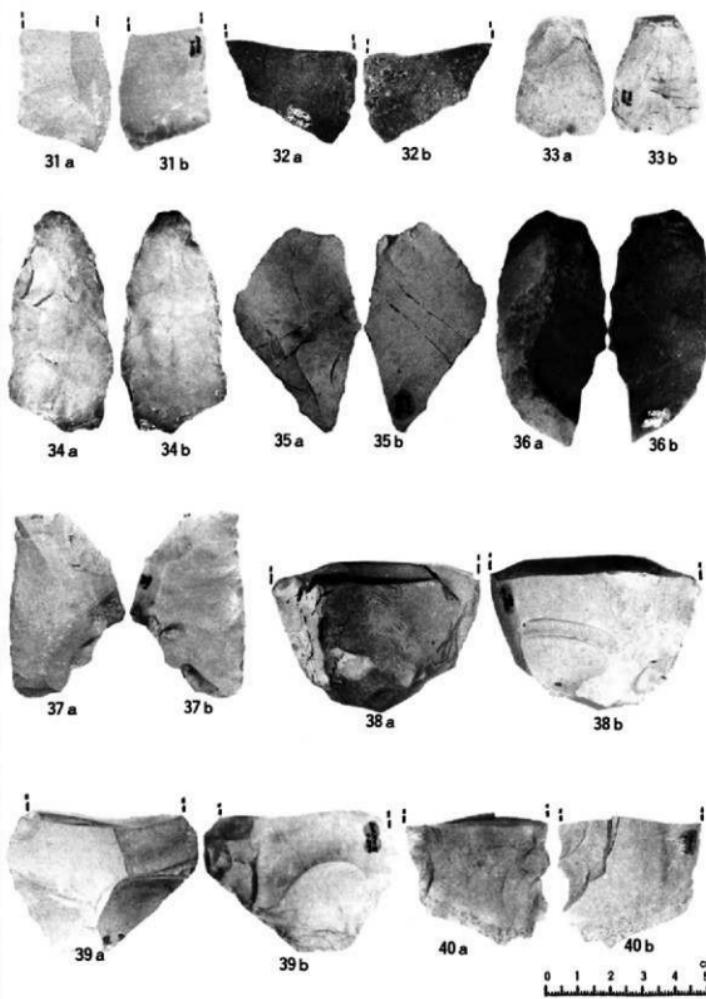
第十四版
一ノ坂遺跡第六次調査出土の石器
(1)



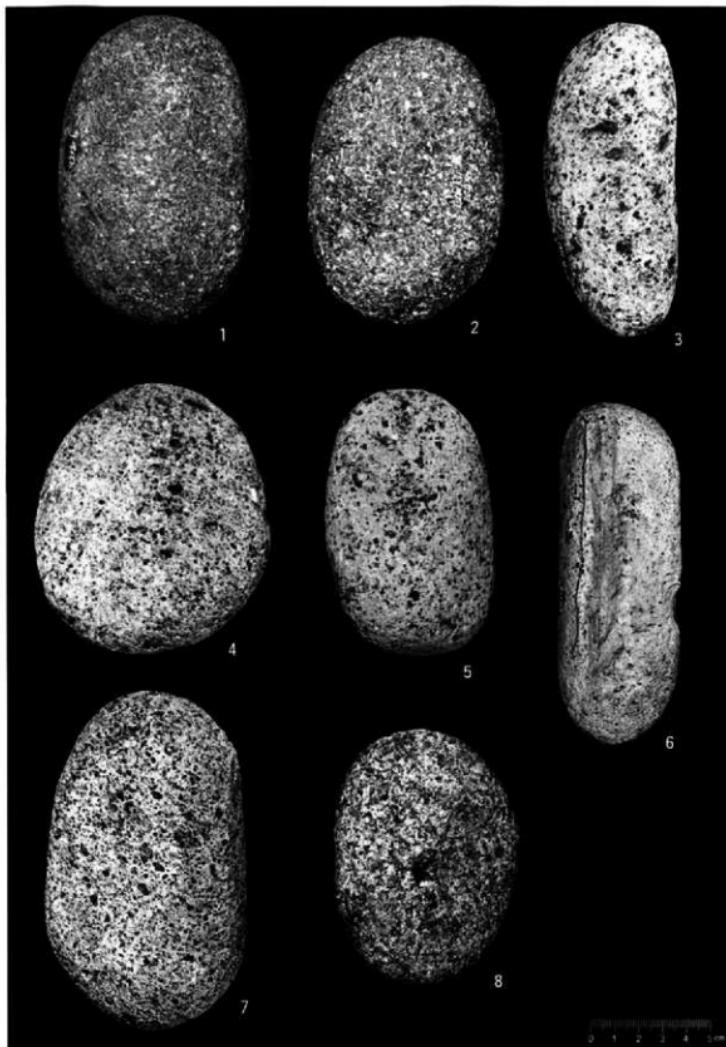


第十二図版
一ノ坂遺跡第六次調査出土の石器(3)





第十四図版
一ノ坂遺跡第六次調査出土の礫器(1)



第6次調査出土の礫器

米沢市埋蔵文化財調査報告書第38号

一ノ坂

一ノ坂遺跡発掘調査概要 第3集

平成5年3月25日 印刷

平成5年3月31日 発行

発行 米沢市教育委員会

米沢市金池三丁目1-55

TEL (0238) 22-5111 内線7504

印刷 タカラ印刷有限公司

米沢市泉町1丁目1番1号

TEL (0238) 38-5395